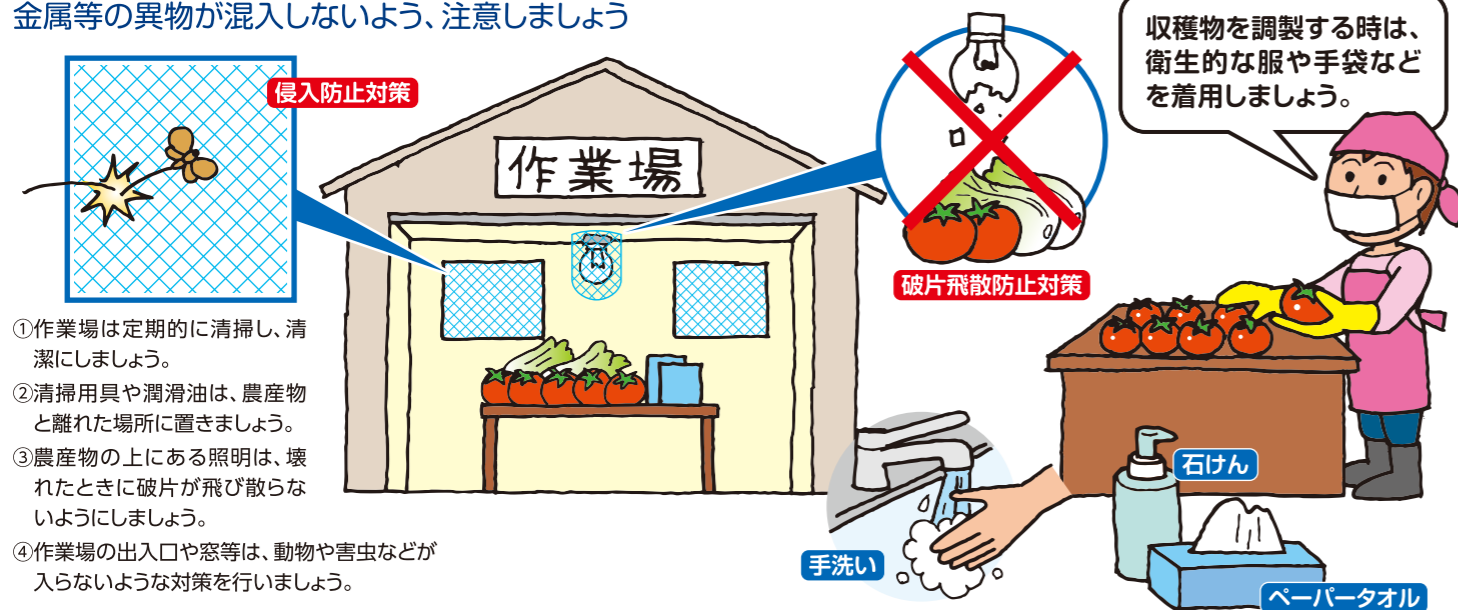


## 8 異物混入を防止する

収穫やほ場～出荷調製施設までの運搬中に、農薬や病原菌の付着や金属等の異物が混入しないよう、注意しましょう



## 9 農産物を衛生的に取り扱う

農産物の運搬、調製、選別、保管時の衛生管理を実施しましょう



## 10 環境保全に努める

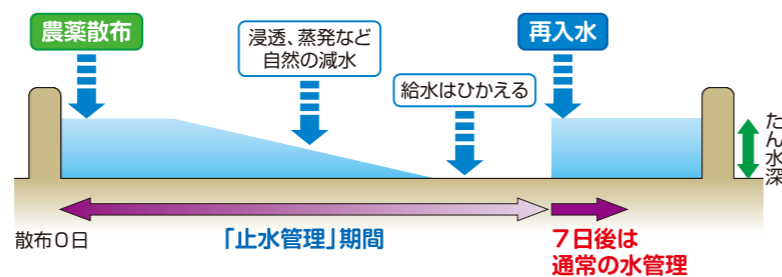
廃棄物の適切な処分や土壌浸食防止、水田の水管理など、周辺の自然環境に悪影響を与えないようにしましょう。

- ①野焼きはやめましょう。
- ②農場から出る廃プラスチックなどは、地域のルールに従い適切に処理しましょう。
- ③水田では農薬散布後7日間の止水管理をしましょう。



### 7日間の止水管理

- 農薬散布時は、農薬が十分拡散するようたん水状態にする
- 水尻を止め、農薬散布後7日間は田面水を田んぼの外に出さない
- 田面が露出しても7日間は給水をひかえる

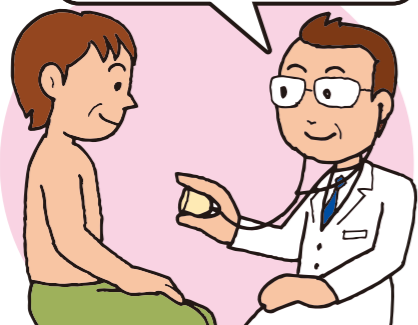


## 11 作業者の事故防止に努める

作業者に事故が起きないように、安全対策をしましょう

- ①危険な作業や場所を調べて、環境改善や危険表示をしましょう。
- ②万一の事故に備え、緊急連絡先を掲示しておきましょう。

農薬の取り扱いや散布を行う作業者は、年1回以上の健康診断を行いましょ。



# GAP(農業生産工程管理)手法を取り入れて あるべき農業生産を 実践しましょ



# GAP(農業生産工程管理)手法を取り入れて あるべき農業生産を実践しましょう

農薬や機械使用によるうっかりミスや事故を防止したり、環境に配慮した栽培や資材の取り扱いをすることで、安全で安心な農産物をつくる取り組みを産地で実践すること(=GAP)が今、注目されています。

より一層、安全で信頼される農産物を生産するため、以下、**①~⑪**のような取り組みをしませんか。

## ① 農薬を減らす工夫をする

農薬を減らすために、総合的な病害虫対策をしましょう

**除草**  
病害虫や作物をよく観察し、適期防除に努めましょう。

農薬を使う際には、益虫(天敵)に配慮した農薬を使用しましょう。

被覆資材やトラップ等の活用

輪作を行う

天敵の導入  
日頃から病害虫や雑草が増えないような土壌管理や栽培管理を行いましょう。

## ② 安全な肥料を適量・適期に使用する

環境汚染につながらないよう、土壌診断結果などにに基づき、完熟したたい肥や肥料を選んで使用しましょう

肥料を散布したほ場がわかる正確な記録を残しましょう。

7月

完熟たい肥づくり

## ③ 農薬はルールを守って使用する

農薬登録されているかな

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9 散布	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
散布した農薬の使用禁止期間						
20	21	22	23 収穫	24	25	26
27	28	29	30	31		

農薬は、散布時期や濃度など、うっかりミスがないよう、注意して使用しましょう

- ① 農薬散布は、必ず使用前点検を行いましょう。
- ② 農薬のラベル内容をよく読み、使用方法を守りましょう。
- ③ 農薬の使用時期(収穫前日数)と使用回数は、必ず確認しましょう。
- ④ 農薬は必要量を調製し、散布時は周辺に飛び散らない(ドリフト対策)ように注意しましょう。
- ⑤ 農薬散布は、風の無い日や時間帯に行いましょう。

## ④ 農薬は正しく保管する

農薬は肥料や農産物と接触しないように保管し、定期的に在庫管理をしましょう

- ① 農薬はカギのかかる適切な場所や倉庫で、保管しましょう。
- ② 保管庫や棚は、引火しにくい材質のものを選びましょう。
- ③ 緊急連絡先や危険警告等の表示をしておきましょう。
- ④ 在庫管理は通常年2回程度、周年(施設)栽培では作付毎に行いましょう。



## ⑤ 農薬使用後の残液は適切に処理する

環境汚染につながらないよう、注意しましょう

- ① 残液は散布ムラの調整に使用するなど河川、水路、ため池に流さないようにしましょう。特に魚毒性の強い農薬の取り扱いには気をつけましょう。
- ② 散布液を調製した使用済みの用具などは十分に洗いましょう。
- ③ 農薬の空びん、空袋、有効期限の切れた農薬は適切に保管し、業者に委託して処分しましょう。



## ⑥ 農薬散布は保護具を着用する

作業者の安全のため、必ず防除用カッパ、マスク、手袋、メガネ、長靴等を着用しましょう

- ① 農薬を散布する時は、自身の安全のため、必ずカッパ等を身に着けましょう。
- ② カッパ等は使用後すぐ洗浄し、農薬と離れた場所へ保管しましょう。



## ⑦ 生産履歴は必ず記帳する

生産部会などで決められた様式に従い、農薬、肥料等の使用を記録に残しましょう

防除日誌は、記入もれや書き間違いのないように正しく記帳しましょう

日誌は作物・ほ場別に 収穫スケジュールを記入

作物:	品種:	生産者:	圃場番号:				
使用農薬の登録内容		散布記録欄					
農薬名	倍率・使用量	収穫前日数	回数(以内)	6/○	6/△	6/□	備考
ジェイエース粒剤	1-2g/株	21日前	両剤で3回	1g/株			
ジェイエース水溶剤	1000-1500	7日前		1000倍			
モスピラン水溶剤	1000-2000	7日前	5回				

使用農薬名は正確に 防除内容を記入 防除メモ